金城会館
15周年記念誌

平成19年9月1日（土）

字金城自治会

字金城自治会の旗

字旗制定　平成13年２月
字旗製作　平成13年７月
デザイン製作者　赤嶺幸雄氏

デザインの趣旨

① 金城の金（カナ）の組み合わせ。
② 平和のシンボル鳩（夫婦）をイメージしてデザインした。
③ 会員相互の協力と和をもって、会の発展飛躍を願う。

平成19年４月

総会と敬老会には国旗と字旗を掲揚しています。

昭和42年１月

金　栄　館

目　次

あいさつ　字金城自治会長　高　良　恒　栄……1

字金城の歩み　赤　嶺　　實……2

土地調査雑感　上　原　久仁夫……4

歴代自治会長・世話人……7

字金城歴代婦人会長……8

歴代書記……8

歴代青年会長及び役員……9

金城ミセス会……10

字金城農協婦人部役員……11

かなぐすく太鼓会のあゆみ……12

受賞者氏名……14

活動アルバム……15

編集後記……24

あいさつ

字金城自治会長
高 良 恒 栄

本日ここに金城会館15周年を記念し、ささやかな式典のご案内を申し上げます。

平成４年の建設以来、皆様のあたたかいご愛顧とご支援に支えられ15周年を迎えることが出来ました。深く感謝申し上げるしだいでございます。

金城会館の周辺の道路はモデル都市として整備され正面には金城公園があり、その中に拝所の御嶽もあり、火の神もあり、又その近隣には幼稚園、小学校、中学校、高校、そして那覇市保健センター（健康相談）まであります。またジャスコスーパーがあり、モノレール小禄駅もあり、この様な素晴らしい環境下にあります。

私達は今後自治会活動の中心になり、字民の学習、教育、研修の場として、地域の発展のため、一層の努力を重ねる覚悟であります。

皆様には一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

字金城の歩み

平成11年敬老会「先輩は語る」より

赤嶺　實

本日は私共70才以上の老人の為このように盛大な敬老会を催して下さいまして、感謝に耐えません。本当に有難うございます。

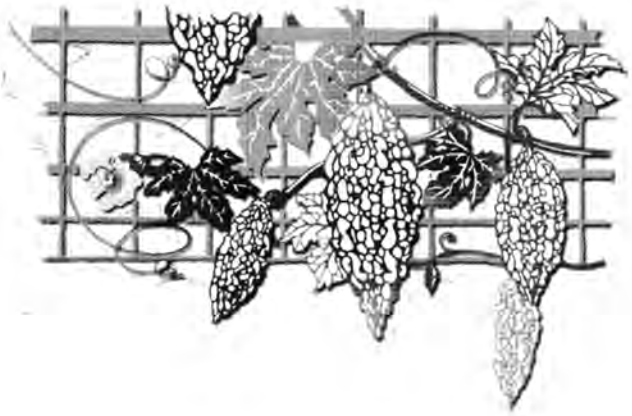
さて、本席は区長さんから私に金城の歴史について話してくれとの事でありますが、ここに小禄村史がございます。この村史はここ会館事務所にも備え付けられてあります。又、字の有志評議員の方々もそれぞれ購入し、お持ちの筈です。この中に字金城の歴史も載っております。これは旧小禄村の村史を発刊の際、各字から一人ずつ出て各々の字の歴史を担当して書かれたものであります。吾が字の担当者は現区長さんの兄さん上原武雄さんです。ですから、金城の歴史については、この本を読んで戴きたいと思います。そこで私はこの本にない部分についてお話し申し上げたいと思います。

戦後私共字金城の直面した大事業について２～３点この場を借りてご報告申し上げ御理解して戴きたいと思います。

先ず戦後最初に直面したのが所有権確認の土地測量でございます。去った大戦で総ての物を失い焦土と化した吾々の土地財産の公図を復元する為、吾が字では早速土地委員を任命結成し土地台帳並びに土地図面の作成に取り係ったのであります。

当時土地委員中、最も若く20才代の私赤嶺實、上原久二夫、そして今では故人となりました新大屋小の高良清一の三人が測量士として任命され、後は有志評議員の全員が土地委員となりました。

当時、測量の知識の全くない私共三人を懇切丁寧にご指導下さった高良恵三さんは会館の落成記念誌の中で最高最大級の表現で私共三人の功績を讃えて下さっています。この事は私に言わすればそのお言葉はそのまんま有志評議員の皆様にお返し与えられるべきだったと思います。と言いますのも夏はさんさんと照り輝く灼熱の太陽の下、全身汗まみれになり、冬は冬で北風の寒風吹きすさむ中を測量用のポールを持って田や畑、森の境界角々を生い茂る雑草をかき分け、さがしさがしハーエーハーエー駆けずり廻られたあの姿が今もなお瞼に焼き付いて忘れる事はできません。あの事業は戦後初代の区長上原孝三郎さんの時に始まり、二代目東り小の高良善栄さんに引き継がれ、更に三代目上東り江の赤嶺寛雄さんの代で完成を見たのであります。



有志評議員の皆さんは字の為、無報酬であの任に当られました。この事は永遠に忘れてはなりません。当時土地測量に当たられた土地委員の方々は、その殆んどが黄泉の世界へ旅立ちされましたが、この大先輩方のご労苦に対し心から感謝の念を禁じ得ません。

次にもう一つの大事業は田原に在った金栄館の建設であります。あの建物と土地は跡型も残っていませんが、あの建物に込められた精神と字民の心意気はそのまま、この村屋、金城会館に引き継がれているものと確信致します。と申しますのは、あの建物の建設に当りましては、有志評議員の方々が字民の家庭は勿論、親戚、友人、知人の家々を一軒一軒足を運ばれて寄附をお願いして廻られました。そして集ったお金が八千参百八拾八弗（当時の通貨）、日円四万六千円（本土在住者からの分）、その他柱時計が寄附となっています。これ等が先輩方の汗の賜（結晶）であります。因にこの建物の建設費用は約一億円（委しくは一億参百四拾八万円）ですが、この資金は総てあの金栄館の在った土地と同建物の立ち退き補償費で賄なわれたという事であります。あの土地はこの村屋（会館）の直ぐ近隣地に換地されました。その土地の売却代金が七千万円、金栄館の建物立ち退き補償金が参千五拾万円（撤去料五拾万円）合計一億円です。あの場所は市の都市計画区域内に在った為、市の立ち退き要求に応じなければなりませんでした。先程申し述べましたとおり、あの土地と建物がそのままこの村屋（金城会館）に生れ変ったと言っても過言ではありません。

最後になりましたが、金城会館（村屋）が他字の公民館と称する建物と違うところは、他は90％が国関係（運輸省や防衛施設庁）からの補助を受けての物であります。それに対し吾々の金城会館（村屋）は那覇市から僅か4.8％（500万円）の補助を受けたに過ぎません。この事は吾々金城字民の団結と心意気を示すものであり、最も誇りとするところであります。

最後になりましたが、字金城の限りない発展と字民皆様のご健康とご多幸をお祈りして終わります。

ほんとうに有難うございました。

土地調査（土地所有権確認調査）雑感

上　原　久仁夫

琉球諸島、米国海軍々政本部は1946年（昭和21）２月28日指令121号を発し、「土地所有権決定の準備として、関係資料の蒐集と調査記録の報告をするように」との通知を発した。

1946年４月18日、琉球諮問委員会は各市町村に対して「所有権確認認定作業を開始するように」との公文を発した。

1951年（昭和26）６月13日、海軍々政本部は布告８号を発し各市町村長は個々の土地の所有権を認定して所有権証明書を発行する権限を付与した。

1951年７月１日、登記所を開設して市町村長発行の証明書で保存登記を可能ならしめた。

吾が字金城では昭和21年７月～８月頃（日時不詳）区長宅にて評議員会を開いて、此の件の対応策を協議すれど、参集した各委員共、吾々は島を離れて長年月が経ち（移民）島の状況は皆目判らないと或は地形が崩れて境界が定かでない現状では島で生活した者にも判らない責任が持てないと談論風発委員となる事を澁る有様であった。区長は現状は皆の言う通り確かに難事業である。然し字民の権利擁護は吾々評議員に課された使命であり、義務である難事業だと言ふて吾々が逡巡して此の責任を抛れば此の仕事は誰がするか他字人に委ねるにしても境界や面積は吾々島人が立会はなければならないのだ。

その費用は甚大であり字民の被る損失は測り難い程大である。吾々は評議員の一員として納得出来るか。

小時の後「後日責任を追及されたらかなわんから字民集会を開き、字民の了承を得た後なら仕方が無いから委員となろう」ということに、後日字民集会が開かれた（日時不詳）決定事項は

① 地積は本人の記憶と３％～3.5％の誤差は認める

② 権利者の有る人は調査時に開示する。

③ 縮尺が１／1200で曲尺の１目盛が２間に相当する。見る位置で相当の誤差が生じる

以上の事を話し合い字民の了承を得て「字金城土地所有権調査委員会」を起ち上げ、委員長に赤嶺眞篤氏を選任決定した。

委員は次の各氏である（順不同）

委員長	赤嶺眞篤	新東り小	高良嘉那	
区　長	上原孝三郎	〃	高良興得	
委　員		高　良	高良幸太郎	
前上江洌小	上江洌亀吉	西高良	高良三郎	
大上江洌	上江洌清三	〃	高良金松	
上　　江	上原亀次	南大屋	高良清	
前又徳山小	上原栄次	〃	高良三郎	
東り小	高良善栄	東り上江	赤嶺清昌	
東り堀川小	赤嶺清一	上江東り江	赤嶺寛雄	以上17人

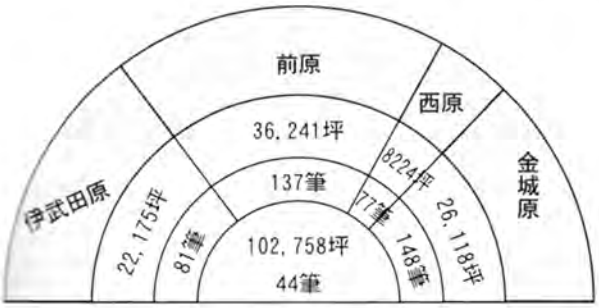
測量器具の平板三脚目盛器は区長が調達して呉れた吾々は米軍の戦地用の電話線で間縄を作った。扨て愈々作業開始である。作業開始の日時は忘れたが始めに金城原、伊武田原、前原、西原の順で始めた。当時、村の食料配給課長だった高良恵三氏も寸暇を割いて吾々の現場にかけつけて指導して下さった。

伊武田原、前原、西原には他島地（他字の人の土地）が多く、その周辺の測量時には区長は他字に文書を出して測量に立ち会うように伝えた。そして立ち会った人からは面積や住所、氏名を聞き、記録する事とした。

吾々の測量は初代区長の上原孝三郎、２代目の高良善栄氏の任期半ば迄に略々現地での測量は終えてその後は３代目赤嶺寛雄氏の時迄屋内での仕事であった。即ち痕跡の在る地点は図面上に記録したので後は平坦と化した空白部分を委員の方々の意見で図面上に面積の区画を書くだけである。

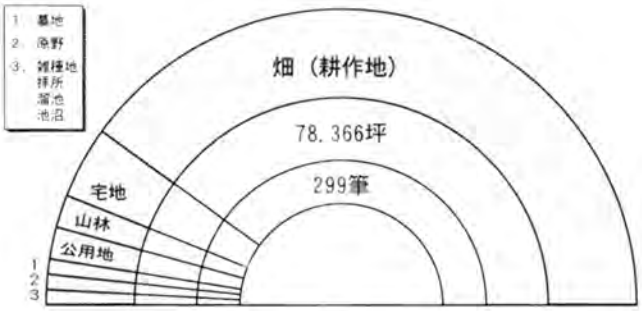
結果は次表の通りである。

戦前の字金城の地勢



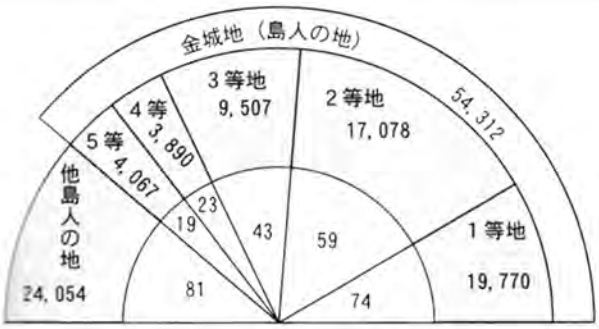
金城集落の全面積

金城原	26,118	坪
西　原	8,224	
前　原	36,241	
伊武田	22,175	
	102,758	坪



金城集落の地目別面積

畑	78,366	坪	299	筆
宅　地	9,968		66	
山　林	5,483		36	
公用地	4,375		4	
墓　地	1,828		16	
原　野	1,333		4	
雑種地	240		2	
拝　所	818		4	
溜　池	231		8	
池　沼	116		4	
	102,758		443	

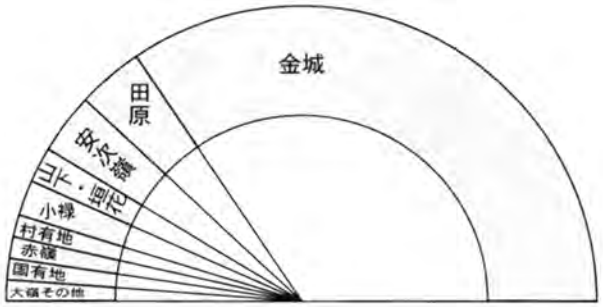


耕作地に於ける島地と他島地の比較（島地の場合）

1等地	19,770	坪	74	筆
2等地	17,078		59	
3等地	9,507		43	
4等地	3,890		23	
5等地	4,067		19	
	54,312	坪	218	筆

耕作地の全容

	全体	金城地	他島地
1等地	2,2667(88)	19,770(74)	2,897(14)
2等地	28,009(89)	17,078(59)	10,931(30)
3等地	14,202(60)	9,507(43)	4,695(17)
4等地	8,719(39)	3,890(23)	4,829(16)
5等地	4,769(23)	4,067(19)	702(4)
	78,366(299)	54,312(218)	24,054(81)



金城区域内の字別面積比較

金　城	71,119	坪	342	筆
田　原	7,603		23	
安次嶺	6,972		21	
山下・垣花	4,481		19	
小禄	4,064		15	
村有地	2,719		2	
赤嶺	2,170		7	
国有地	1,656		2	
大嶺・その他	1,974		12	
	102,758	坪	443	筆

吾々金城の人々は54,312坪の畑から得た農作物で賄われていた。

字有地の売却

字有地1416坪の中から公民館用地を確保の上売却する事に決定

1004坪を売って412坪を確保すれど減歩（減歩率34.5%で142坪）されて残ったのが270坪の敷地である。金栄館敷地（118坪）は11%の減歩（13坪）で105坪で換地された。

売却日	金　額	面　積(m²)	単価(円／m²)
昭和58年7月11日	46,283,920	849.87	54,460
〃 58　12月2日	49,995,000	825.00	60,600
〃 59　1月6日	49,631,400	819.00	60,600
〃 60　1月5日	26,179,692	410.34	63,800
〃 61　1月17日	27,443,900	409.00	67,100
	¥199,533,912	3313.21≒1004.003 坪	

字有地の名義人と売却

吾が字金城には祖先より継承されてきた字有地がある。総面積は18筆で1398坪であったが、開放後那覇市による区画整理事業の策定に当り、アジア測量設計事務所の再測量で18坪増えて、1416坪となった。

戦後の土地所有権調査で字有地は赤嶺眞篤（字調査委員長）、上原栄治（評議員会代表）、上原孝三郎（村議会議員）、赤嶺寛雄（区長）の４氏の共有名義で昭和30年５月16日保存登記を為して確保してきた。上原栄治氏の死亡により、昭和35年１月22日栄治氏の持分が遺族より他の３氏に贈与され、眞篤氏も老齢を理由に持分名義の変更を区長に申し出て、昭和44年９月22日、持分を高良亀助氏（人選は評議員会で議決）に贈与して、上原孝三郎、赤嶺寛雄、高良亀助３氏が字有地名義人となった。

金栄館敷地と建物の名義人

上江洲　清　三……大上江洲

上　原　孝三郎……前又東徳山小

赤　嶺　三　郎……東り堀川小

歴代自治会長・世話人

代	自治会長名	在任期間	世話人	備考
第44代	高良恵和	5.4.1～ 6.3.31	高良久子 上江洌トシ子	
第45代	上江洌義雄	6.4.1～ 7.3.31	上江洌和子 上江洌トシ子	
第46代	上江洌正男	7.4.1～ 8.3.31	上江洌春子 高良澄子（兼）	
第47代	高良成雄	8.4.1～ 9.3.31	上江洌春子 高良澄子（兼）	
第48代	赤嶺清秀	9.4.1～ 10.3.31	赤嶺明子 上江洌ミヨ	
第49代	赤嶺寛一	10.4.1～ 11.3.31	赤嶺光 上江洌ミヨ	
第50代	上原義雄	11.4.1～ 12.3.31	高良千代子 上江洌春子	
第51代	上原義雄	12.4.1～ 13.3.31	高良千代子 上原美栄子	
第52代	高良勲	13.4.1～ 14.3.31	高良千代子 上原美栄子	
第53代	高良勲	14.4.1～ 15.3.31	高良千代子 上原美栄子	
第54代	高良慎太郎	15.4.1～ 16.3.31	高良千代子 上原美栄子	
第55代	高良慎哲	16.4.1～ 17.3.31	高良ヤス子 上原美栄子	
第56代	赤嶺真栄	17.4.1～ 18.3.31	赤嶺久美子 上原美栄子	
第57代	赤嶺清	18.4.1～ 19.3.31	高良千代子 上原美栄子	
第58代	高良恒栄	19.4.1～	上原美栄子 高良千代子	

字金城　歴代婦人会長

名　前
仲　地　ト　ミ
高　良　カ ミ ー
高　良　ヨ シ 子
高　良　シ　ゲ
赤　嶺　カ マ ド
高　良　ヨ　シ
高　良　久　子
高　良　ト　ヨ
高　良　康　子
高　良　秀　子

歴代書記（平成６年度以降）

※平成５年度までは書記を置かず、会長又は副会長が庶務を担当

氏　名	在任期間	備　考
高　良　澄　子	平成６年度～10年度	
高　良　恵　和	平成11年度	
高　良　幸　子	平成12年度～15年度	
上　原　延　枝	平成16年度～現在	

歴代青年会長及び役員

役　職	就任年	名　前
初代青年会長	昭和27年1月	高　良　安　郎
青　年　会　長	昭和28年8月	高　良　忠　一
〃	昭和29年7月	高　良　太　郎
〃	昭和33年8月	赤　嶺　忠三郎
〃	昭和43年1月～45年12月	高　良　恒　栄
青年副会長	〃	高　良　文　雄
青　年　会　長	昭和59年4月～61年10月	上　原　和　範
青年副会長	〃	高　良　幸　男
青　年　会　長	平成4年4月～現在	上　原　栄　三
初代太鼓会会長	平成11年5月～12年3月	高　良　健　二
太鼓会会長	平成12年4月～現在	上江洌　大
太鼓会副会長	〃	上　原　頼　義
会　計	平成8年4月～現在	高　良　恒　範

金城ミセス会

設立趣意

第一世代の婦人部に参加しきれずにいる嫁世代、これでよいのか、何か方法はないのかとの話し合いの中で、嫁世代を集めて活動してみようではないかということでミセス会の立ち上げに至っている（婦人部の方で参加している方もいる）

発足　　平成11年５月
　高良久子　上江洌和子　高良春美　高良玲子　以上４人で立ち上げる
　参加人数　11名

平成11年～13年　世話係
　高良久子　上江洌和子

平成14年～17年　世話係
　高良春美　高良玲子

平成18年～現在
　高良佐和子　高良恒子
　参加人数　15名

現在の活動状況
　毎月第二金曜日
　　活花・・・講師　上原道子

毎月第四金曜日
　料理講習、手芸等・・・定例会
　　講師　その都度

字金城　農協婦人部役員

任　期	部　長	
昭和53・54年度	上江洌　トシ子	宮城　シゲ
昭和55・56年度	上江洌　トシ子	宮城　シゲ
昭和57・58年度	上江洌　ミツ	高良　千代子
昭和59・60年度	赤嶺　フジ	上原　トミ
昭和61・62年度	高良　文子	赤嶺　ヨシ
昭和63・平成１年度	上江洌　光子	上原　キミ
平成２・３年度	上原　敏子	高良　久子
平成４・５年度	上江洌　トシ子	高良　久子
平成６・７年度	赤嶺　昌子	高良　千代子
平成８・９年度	上江洌　ミヨ	上江洌　和子
平成　10　年度	上原　好子	上江洌　和子
平成11・12年度	上江洌　トシ子	高良　千代子
平成13・14年度	平良　景子	仲村渠　光子
平成15・16年度	高良　春美	高良　玲子
平成17・18年度	上原　道子	高良　美代子
平成　19　年度	上江洌　トシ子	高良　艶子

かなぐすく太鼓会のあゆみ

太鼓会会長　上江洌　　大

平成10年12月、字金城青年会の忘年会の席で上原栄三氏の「来年の夏に夏祭りを開催しよう、その中心になる企画として青年会でエイサーを習い披露しよう」という案により太鼓会は結成された。そこには若者がなかなか集まらない青年会の人集めの為、字金城自治会また金城地域を盛り上げようという思いがあった。翌年２月、高良栄氏の知人を通して字鏡水の鏡水鏡鼓会の練習場へ通うことになった。最初のメンバーは、上原栄三、高良健二、高良一夫、高良栄、上江洌大の５氏だった。

初お披露目は練習開始から２ヵ月後、４月の自治会長の歓送迎会に「ミルクムナリ」を初披露した。大太鼓だけは準備して日々練習していたが衣装は近くの居酒屋のユニフォームを借用、今振り返ると演舞もひどいものだった。

それから１月さらに練習を重ねて、字金城の会員にはがきで参加を呼びかけ平成11年５月、名称を「かなぐすく太鼓会」として正式に発足した。当初集まったのは小学生を中心に20名くらいで青年会の思惑とはかけ離れたものだったが、地域貢献・健全育成という観点から字金城人以外の人の入会を認め次第に人数は増えていった。

初代会長高良健二氏のもと、８月の夏祭りに向けて週２回１時間半の練習を続けてついに夏祭りを迎える。メンバーは30名余りに増えてはいたが小学生低学年が中心なことや経験不足なことなどから鏡鼓会から20名ほど応援を頼んでの演舞であったが初めてみる迫力あるエイサーの演舞に夏祭りは大盛況であった。

翌年、太鼓会会長が上江洌大に交代、副会長に上原頼義氏が就き活動の幅を広げていく。夏祭りを中心とした字金城の行事以外に毎年国際通りで開催される「一万人のエイサー」や同じく国際通りで行われる「那覇祭り市民芸能パレード」、「なは青年祭」、沖縄市の空港通りで行われる「国際カーニバル」や「青年ふるさとエイサー祭り」など金城地域外でのイベントにも積極的に参加するようになる。夏祭りの影響や、他の行事での演舞をみてかなぐすく太鼓会に入会したいという問い合わせも多数あり、メンバーは100名に近い大所帯になっていった。

かなぐすく太鼓会は、イベント活動以外にも健全育成の一環としてエイサーの演舞を生かして老健施設の訪問や他県の子どもたちとの交流会、島尻養護学校寄宿舎との交流なども積極的に行っている。普段の生活ではあまり接触する機会がない人達との交流は、相手の方たちからは喜んでもらえ、当会の子供達にとっても得るものが大きく今後も続けていくつもりである。

ここ数年、当会と同じような創作エイサー団体や旗頭、獅子舞といった伝統・創作芸能団体との交流が盛んである。平成16年10月、これらの各団体が集まって作った「琉楽座」という団体で「Ryukyu民族の祭典」というイベントを奥武山多目的広場で開催した。もちろん当太鼓会も積極的に参加した。スポンサー集めから初めての演出された舞台・演舞、そこに至るまでの厳しい練習など多くの苦労もあったが本番が終わると大きな感動を味わえた。以後、毎年県外や海外からの民族・芸能団体を迎え発展を続けるこのイベントに当会は積極的に関わっている。

発足から８年目を迎え、かなぐすく太鼓会は地域貢献と健全育成を柱にこれからもいろいろなことに積極的にチャレンジしていきたい。

主な活動

一万人のエイサー・那覇祭り市民芸能パレード（国際通り）　なは青年祭（とまりん）　国際カーニバル（沖縄市空港通り）　世界のウチナーンチュ大会・応援イベント（2006年）　青年ふるさとエイサー祭り、Ryukyu民族の祭典、全沖縄子どもエイサー祭り　島尻養護学校寄宿舎交流会（H17年～）　沖縄・遊・YOU塾（県外子ども会との交流会）　老健施設訪問（小禄病院・幸地クリニック他）

感謝状

高良正次郎殿

貴殿は永きに亘り本会の役員としてその重責を担い誠心誠意会活動に専念され特に活動資金の確立に尽力し金城自治会発展の礎を築いていただきました

よって金城会館建設十五周年記念式典を挙行するに当り記念品を贈呈し感謝の意を表します

平成十九年九月十五日

字金城自治会

会長 高良恒栄

感謝状

赤嶺眞篤殿

貴殿は戦後米軍に接収された郷土の土地の所有権及び地積の不明瞭な時期に字金城の地籍の調査を実施し字民の財産の確保に尽力されました金城の今日の繁栄は皆様の活躍によるものでありその功績はまことに顕著であります

ここに金城会館十五周年記念式典を挙行するに当り記念品を贈呈し深甚なる感謝の意を表します

平成十九年九月十五日

字金城自治会

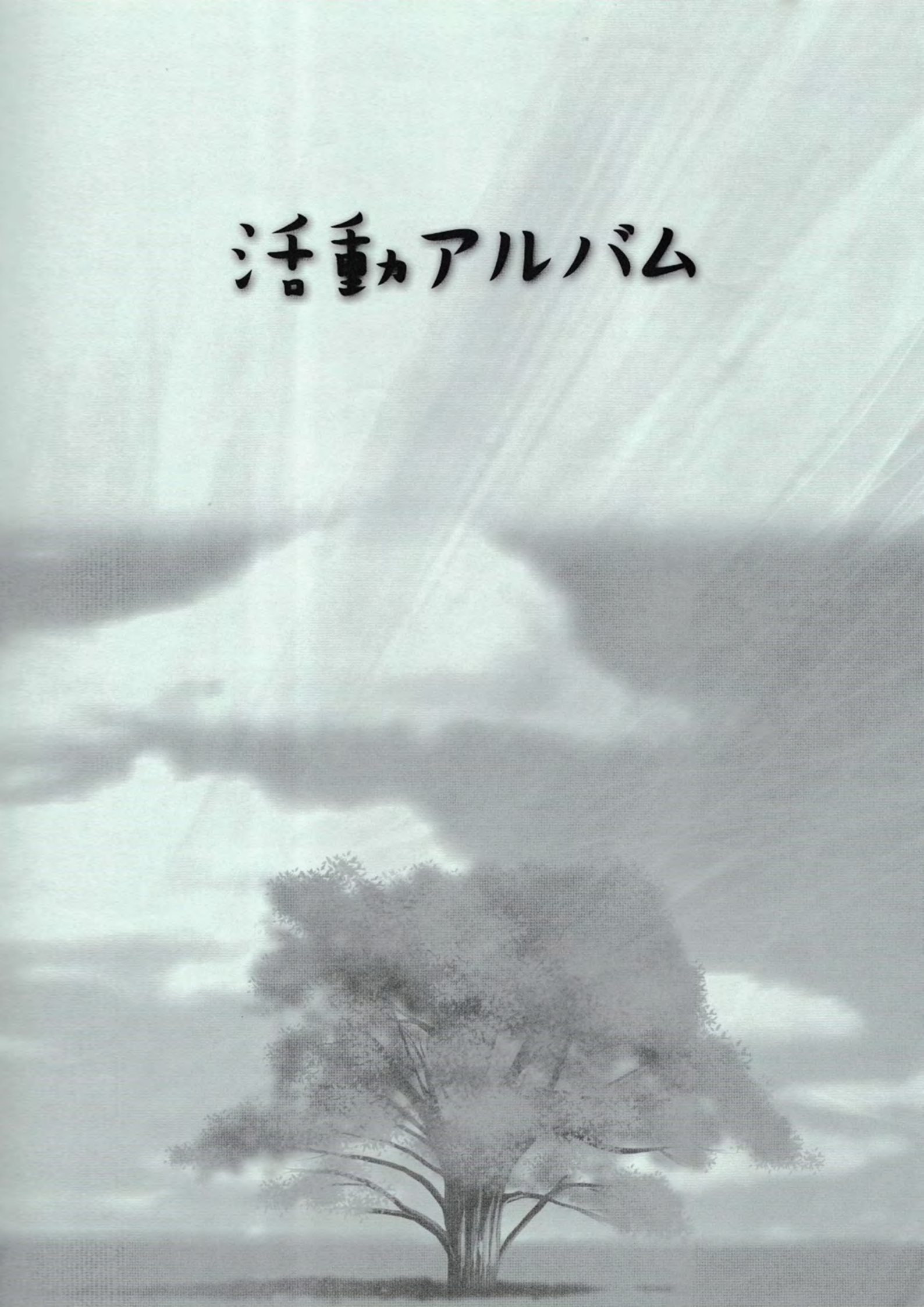
会長 高良恒栄

受賞者氏名

（上記他）

上原孝三郎
上江洲亀吉
上江洲清三
上原亀次
上原栄次
高良善栄
赤嶺清一
高良嘉那
高良興得
高良幸太郎
高良三郎（西高良）
高良金松
高良清
高良三郎（南大屋）
赤嶺清昌
赤嶺寛雄
高良恵三
高良亀助
赤嶺三郎
赤嶺實
上原久仁夫
高良清一

活動アルバム



昭和46年5月23日 撮

活動風景

ミセス会
活動の様子

新旧自治会長
歓送迎会

第1回 グランドゴルフ大会

婦人部

太鼓会

夏まつり

第1回(1999年)

夏まつり　第5回（2003年）

字金城自治会

世界遺産厳島神社参拝記念

沖縄一万人のエイサー踊り隊

パレード出演記念

編集後記

赤嶺實氏の「字金城の歩み」を読むと、金栄館建設に当り、字の有志の方々の並々ならぬご苦労と字民の結束力の強さが、ひしひしと感じられます。金栄館の基礎の上に建ったのが金城会館です。

先輩方の血のにじむような努力と字民への深い愛念を末永く記念するために、この金城会館を最低100年は使用できるように、そのつど補修を行っていきたいと願っています。

本誌の編集を決め原稿を依頼してから、短い期間ではありましたが、快く原稿をお寄せいただきました各評議員や会員に衷心より感謝を申し上げます。短期間での調査でしたので、婦人会長や青年会長の中には、もれてしまった方々もあるかと思います。謹んでおわび申し上げます。

金城会館15周年記念誌編集委員長　上　原　義　雄

金 城 会 館

15周年記念誌

発行日　平成19年9月1日

発　行　字金城自治会
〒901-0155
沖縄県那覇市金城3－3－2
電話（098）857－6341

印　刷　株式会社　東洋企画印刷
〒900-0024
沖縄県那覇市古波蔵4－1－1
電話（098）831－7404